

(32) 釜石近郊の鵜住居(うのすまい)川の餅鉄

参考文献(1)には、日本全国に渡っての川原の石ころが紹介されている。その中に、釜石市の1つの河川である橋野川が紹介されている。この川原では「餅鉄」が採集できるらしい。この本を手引きに、探査を行った。この川は下流では鵜住居川、中流以上では橋野川という名前を持っている。国道45号線を釜石の北の鵜住居町まで進む。この町のだ真ん中を鵜住居川が流れ、太平洋に注いでいる。川に沿って、橋野町に向かって進んでいく。文献に書いている「いまでも、上流から下流まで、川原のあちこちでもち鉄が拾える」。地形図の赤丸で挟んだ流域で、磁石を片手に川原の探査を行った。長靴ではなかったので、川岸しか探せなかったが、何個かの餅鉄を採集した。ついでながら、川原には磁石が弱く引きつけられる砂岩がたくさんある。餅鉄は磁石を強く引きつける。



地図 国土地理院2万5千分の1地形図地図「橋野」

探査日 2009年1月

参考文献

(1)「川原の石ころ図鑑」、渡辺一夫、ポプラ社、2002年。

鉱山跡写真

なし

採集鉱物写真

品名 もち鉄（餅鉄＝べいてつ）
化学組成 Fe_3O_4
色 黒、黒褐色、褐色、赤褐色等
断口



採集試料解説

- （１）黒っぽいもち鉄４個
- （２）赤褐色のもち鉄４個。共に密度は大きく、磁石に良く引きつけられる。
- （３）黒ごま塩色の石類は「はんれい（斑糲）岩（火成岩、深成岩）」であろう。文献（１）の２２頁との比較で。磁石に引きつけられるので、鉄分に富んでいる石である。
- （４）１番大きい石。上記２種と比較すると、相対的に中間ぐらいの磁石との引きつけ力を持っている。岩の表面を見ると、泥岩であり、細脈が貫入している。「鉄分の多い泥岩」としておこう。

解説

- （１）外見は泥岩状。鉄分が多いほど重く、かつ磁石に強くひっつく。磁鉄鉱が風化粉碎され、碎石が川で浸食を受け、角が取れ丸みを帯びて餅状になったととの見解がある。
- （２）この石を釜石市地域で、表題の如く「もち鉄」と呼んでいる。が採集した河原には、もち鉄ほどではないが、もち鉄と比較すると弱い磁石を引きつける砂岩（？）もあった。ここでは「鉄分の多い砂岩」と呼称しておこう。
- （３）参考文献の紹介している栗林地域、及びその下流では１個も見つけることができなかった。探し方が下手だったのかもしれないが。
- （４）次回は、更に上流で採集を試みよう。上流には、大島高任が建設した橋野高炉跡がある。この高炉の上流、又は、橋野川の支流（赤柴川）でも探査を試みてみよう。
- （５）唄貝川（釜石の中心を流れて太平洋に注ぐ甲子川の上流の一部分）でも、もち鉄が取れるらしいので、この川でも採集を試みよう。
- （６）次回は、川の流れの中でも探査が簡単にできるために、紐を付けた大きめの磁石を何個か準備し、流れの中を引きづるのが良さそうである。